

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	環境園芸学科			
科目名称	卒業論文						授業形態	実験		
科目コード	710096	単位数	6単位	配当学年	4	実務経験担当教員			Active・L	○
担当教員名	山口 健一							ICT活用	○	
授業概要	‘環境保全園芸学’に関する実験科学的な研究テーマを定め、その背景、実験手順・内容およびデータ解析の方法について習得することを目的とする。									
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ									
授業の方法と進め方	受講生と教員が合意した卒業論文の研究課題について、受講生が自ら能動的に情報を収集しながら実験・解析手法を習得する。卒業前に卒業論文概要ならびに卒業論文を完成させ、指導教員に提出する。 本授業では、受講生が指導教員とディスカッションしながら問題解決型の体験学習とし、適宜プレゼンテーションを取り入れて行う。									
第1回	0 1. 授業の進め方 受講生の課題を決め、研究手法について学ぶ。									
第2回	0 2. 授業の進め方 受講生の課題を決め、研究手法について学ぶ。									
第3回	0 3. 共通基礎手法の習得〔1〕 野菜園芸植物の取り扱いについて学ぶ。									
第4回	0 4. 共通基礎手法の習得〔1〕 野菜園芸植物の取り扱いについて学ぶ。									
第5回	0 5. 共通基礎手法の習得〔2〕 果樹園芸植物の取り扱いについて学ぶ。									
第6回	0 6. 共通基礎手法の習得〔2〕 果樹園芸植物の取り扱いについて学ぶ。									
第7回	0 7. 共通基礎手法の習得〔3〕 花き園芸植物の取り扱いについて学ぶ。									
第8回	0 8. 共通基礎手法の習得〔3〕 花き園芸植物の取り扱いについて学ぶ。									
第9回	0 9. 共通基礎手法の習得〔4〕 野草・雑草植物の取り扱いについて学ぶ。									
第10回	1 0. 共通基礎手法の習得〔4〕 野草・雑草植物の取り扱いについて学ぶ。									
第11回	1 1. 共通基礎手法の習得〔5〕 真菌・酵母類の取り扱いについて学ぶ。									
第12回	1 2. 共通基礎手法の習得〔5〕 真菌・酵母類の取り扱いについて学ぶ。									
第13回	1 3. 共通基礎手法の習得〔6〕 細菌・放線菌類の取り扱いについて学ぶ。									
第14回	1 4. 共通基礎手法の習得〔6〕 細菌・放線菌類の取り扱いについて学ぶ。									
第15回	1 5. 研究中間報告 研究の発表手法について学ぶ。									
第16回	1 6. 研究中間報告 研究の発表手法について学ぶ。									

第17回	17. 個別高度手法の習得〔1〕 微生物の分離・純粋培養技術について学ぶ。
第18回	18. 個別高度手法の習得〔1〕 微生物の分離・純粋培養技術について学ぶ。
第19回	19. 個別高度手法の習得〔2〕 微生物のベンチスケール培養技術について学ぶ。
第20回	20. 個別高度手法の習得〔2〕 微生物のベンチスケール培養技術について学ぶ。
第21回	21. 個別高度手法の習得〔3〕 微生物の同定技術について学ぶ。
第22回	22. 個別高度手法の習得〔3〕 微生物の同定技術について学ぶ。
第23回	23. 論文作成ガイダンス 実験科学系卒業論文の作成手順について学ぶ。
第24回	24. 論文作成ガイダンス 実験科学系卒業論文の作成手順について学ぶ。
第25回	25. 卒業論文の作成 自己研究の卒論概要を纏め、卒業論文を作成する。
第26回	26. 卒業論文の作成 自己研究の卒論概要を纏め、卒業論文を作成する。
第27回	27. 卒論発表の準備 卒論研究発表用の資料を作成する。
第28回	28. 卒論発表の準備 卒論研究発表用の資料を作成する。
第29回	29. 卒業論文発表 卒論研究の発表手法について学ぶ。
第30回	30. 卒業論文発表 卒論研究の発表手法について学ぶ。
授業の達成目標	慣行の園芸生産（蔬菜・果樹・花卉）の環境上の問題（農薬・化学肥料の多用、家畜排泄物に起因する環境汚染、資材のリサイクル等）を理解するとともに、それを解析及び解決する手法を習得する。
学位授与方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力－(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力－(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養－(2)
授業時間外学習【予習】	次回の課題内容を予めアナウンスするので、各自で予習を行う。(30分程度)
授業時間外学【復習】	授業で学習した各回の課題について受講生各自で毎回復習する。(1時間程度) なお、不明な学習箇所は、必ず指導教員に質問して自らの学びを深める。
課題に対するフィードバック	授業で出た質問については、補足資料等を付して詳細回答する。なお、共通の質問に対しては回答を含めて全受講生で共有する。
評価方法・基準	研究手法の習熟度（50点）と提出された論文（50点）で評価する。
テキスト	卒業論文の課題テーマに応じて、適宜実験書等を知らせる。
参考書	授業内容に関する資料や論文、参考となる図書を適宜紹介する。
備考	